

004 TICA

3月11日以降、寝る前に本を読む習慣が落語をiPodで聴く習慣にとって代わったので、なかなか本が読めなくなったけれど、今更ながら落語の面白さを堪能しています。

著書	著者	コメント
虐殺器官	伊藤計劃	<p><後進国で頻発する民族虐殺の背後には謎の米国人ジョン・ポールの存在があった。米情報軍のクラヴィス大尉はインド、アフリカの殺戮の地にその影を追う……小松左京賞最終候補の近未来軍事SF></p> <p>著者は、2年前に34才で逝去。作家活動僅か二年。この人のmixiは閉鎖されたようだけど、今でもブログは読めます。この本のあとがきに感動しました…なんて感想はカンペキ読み方を間違えています^^;</p>
今日を刻む時計 ～髪結い伊三次捕物余話	宇江佐真理	<p><大火で住み慣れた家を失った伊三次とお文。あれから十年、二人は新たに女の子を授かっていた。そんな二人の目下の悩みは、独身を続ける不破龍之進と絵師になる修業をしている一人息子、伊与太の身の上…></p> <p>主役は完全に伊三次から伊三次の雇い主の息子、龍之進に移った。若さの魅力があった伊三次はもうとっくにいないのだから副題はもういらぬのでは…。</p>
吉祥寺の朝比奈くん	中田永一	<p><山田真野。上から読んでも下から読んでも、ヤマダマヤ。吉祥寺に住んでいる僕と、山田さんの、永遠の愛を巡る物語>不覚にも中田永一が乙一と知らずに生きて来た！！ついでにいえば山白朝子も乙一の別名義。読む楽しみが増えたと喜んでおこう。</p>
よってたかって古今亭志ん朝	志ん朝 一門	<p>弟子たちが師匠志ん朝の思い出を語る一冊。弟子たちがわいわいと思い出話に花を咲かせると言っただけの本。選ぶ本を間違えた。志ん朝の落語や人となりの本が読みたかったのに。</p> <p>落語にあまり詳しいわけじゃないからか、江戸落語は志ん朝じゃないと聞く気がしない。生きている当時は外車だのドラマだのCMだのと派手なイメージがあり、派手なボンボンくらいに思い、聞かなかったのが非常に悔やまれる。三木助が自殺した時に志ん朝が同じく大看板の父親を持つ苦悩に共感していたのが印象に残っている。思えば、その同じ年に志ん朝も63才で亡くなってしまふのだが…。志ん朝は、話は巧いし色気はあるし枕も面白い。兄の馬生</p>

	<p>の法事で酔いが醒めないまま高座にあがったり、枕で「ボク」と言ってしまうたり、人間志ん朝も魅力的な人。</p> <p>東は志ん朝、西は枝雀が大好きなのだが、タイプがまるで違う。枝雀は落語の取り組み方がそれまでの誰とも違い、誰よりも奔放な芸に見えた裏には緻密な組み立てと独特の笑いの理論がある。枝雀は、笑いは「緊張と緩和」だと説いていた。</p> <p>と、ここで同じ言葉をよく使う人がいるのに気がつく。そうです、小林賢太郎。あの人は横浜育ちだから江戸落語を真似るし、作っているキザっぷりもどことはなしの風貌も志ん朝を思わせるが、笑いを突き詰めると言うところではまさしく枝雀だと言える。枝雀は海外で英語の落語をしたりと、新しい落語の挑戦を続けていた。すごく苦しんで笑いを作りあげていた人だと感じる。そういうところも賢太郎と似ている。0.1を10回積み重ねて1にする努力も枝雀ならわかってくれただろう。丸い顔でにこにこ聞いてくれただろう。</p> <p>…と、似ていると言っても小林賢太郎は死んではいけないのですが。</p> <p>それにしても志ん朝、枝雀が生きている時代はとても贅沢なときだったと改めて思う。今生きていたら二人とも70前半。まだまだ楽しませてくれていたのに本当に残念で悔しい。</p> <p>もう立川談志しかいない。洒落つけがきつくて志ん朝の粋とは違うところにいる人だけど、きっと純粹で正直で可愛い人なのだろう。でも談志も体調が悪くこの先高座に上がることはかなり大変そう。</p> <p>立川談志はラーメンズを一番最初に認めてくれた。</p> <p>わたしの中では、志ん朝、枝雀、談志、ラーメンズというのはちゃんとつながっている…。</p> <p>立川談志は枕で政界の話をよくするけれど、いつときでも政界に行ったのは不正解だったね。…と最後に余計なダジャレを書きくわえ、おあとがよろしいようで^^;ちゃんちゃん</p>
--	--

<p>小林賢太郎 戯曲集</p>	<p>小林賢太郎</p>	<p>「CHERRY BLOSSOM FRONT345」「ATOM」「CLASSIC」の3公演からのいくつかの台本。いかにもアドリブという片桐仁の台詞はいつもきちんとホンどおり。アドリブを言っているのは賢太郎だけ。仁さんがアドリブいうと、あとで賢太郎に怒られちゃうもんね。</p>
----------------------	--------------	--

8月25日、朝日新聞のテレビ欄に

NHK-B Sの『小林賢太郎テレビ3』の大きな紹介記事が載った。

3シリーズの中でいちばんよく出来ていたと思うので記事の賞賛がおべんちゃらにならずにひと安心。

記事で「戸塚区」は子どもが喜びそうと書いてあるけれど、オトナだってちゃんと喜びましたとも。

鶴見の「馬場」が出てきちゃうしね♪

